

「松山の授業モデル」と ICT 活用（総合的な学習の時間）

学習場面 (松山の授業モデル)	I C T 活用例
<p>■ 学習課題の設定</p> <p style="text-align: center; border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px;">習得・活用・探究</p>	<p>情報を収集する場面</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分が見たこと、人から聞いたこと、図書で調べたことやマスメディアからの情報に加え、インターネット等を介して必要な情報を集めていくことができる (B2)。 ・調査活動においては、ワークシートなど手書きの記録と併せてデジタルカメラやデジタルビデオカメラ、タブレット型の学習者用コンピュータや I C レコーダーなどを用いて、情報をデジタル化して記録していくことができる (B2)。 
<p>■ 交流し考える学習</p> <p style="text-align: center; border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px;">交流・表現・体験</p>	<p>情報を整理する場面</p> <ul style="list-style-type: none"> ・収集した情報の整理は、情報の重要性や信頼性を吟味した上で、比較・分類したり、複数のものを関連付けたり組み合わせたりして、新しい情報を創り出すことができる (B3)。 ・プレゼンテーションやポスターセッション、劇や音楽などの方法を用いる際にも I C T の積極的な活用ができる (B4、C3)。   <p>情報を発信する場面</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報の発信は、発信した情報に対する返信や反応が得られるように工夫することが望ましい。このとき、I C T を活用することで、地域の人々、他の学校の児童・生徒たちから、自分の発信した情報に対する感想やアドバイスが返り (C4)、それを基にして改善したり発展させたりするサイクルをつくるのが期待できる。 ・異なる学校を、直接的な交流や I C T を活用した遠隔交流などにより結んで行う協働的な学習 (C4) は、共に学習活動を進めるという意識や高め合う意識を生んで学習意欲を向上させたり、自分たちだけでは調べられない相手の地域の情報を得たりするという利点がある。具体的には、自分たちの住んでいる地域について調べたことについて、他の地域の学校の児童・生徒と相互に紹介し合うことにより、様々な気付きを得るといことが考えられる。 

■ 学習の振り返り

内容×方法

実践活動を振り返り、評価・改善する場面

- ・ 学習活動の結果を文章やレポート、論文などにまとめたりしていくことが有効である。このとき I C T の強みを生かすようにしたい。児童・生徒間の情報共有や協働的な学習を促すためにも、複数の児童・生徒が同じ画面を見ながらそれぞれのアイデアを記入することができるようなツールや他の児童・生徒の考えにコメントを付けられるような機能を活用することが考えられる (C2、C3)。